茂林寺沼湿原自然学習会

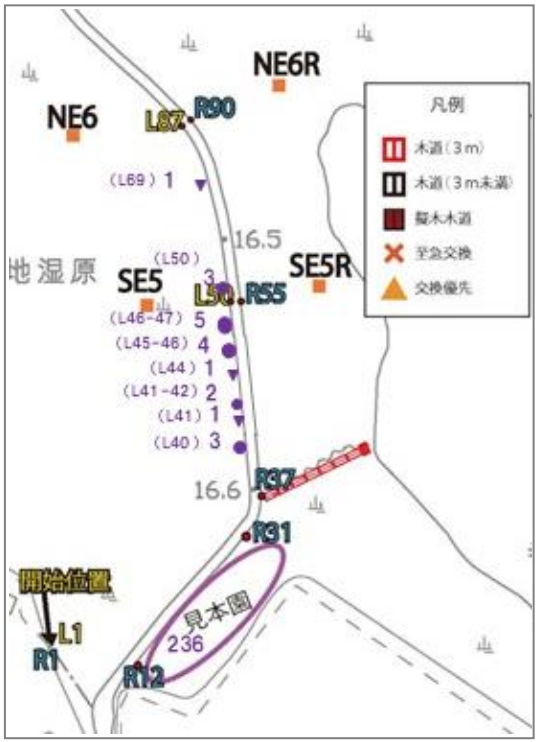
― 湿原の春の植物特集 ―

令和8年5月9日

カキツバタの花を観察しよう！

中央園路沿いのカキツバタ

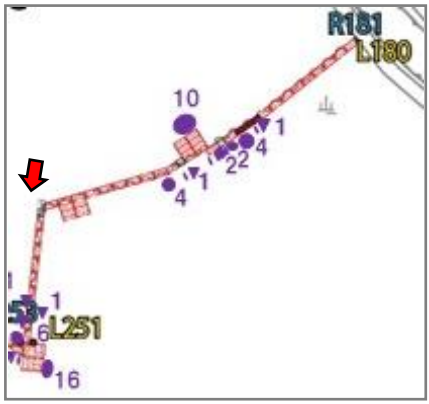
昨年5月9日時開花状況

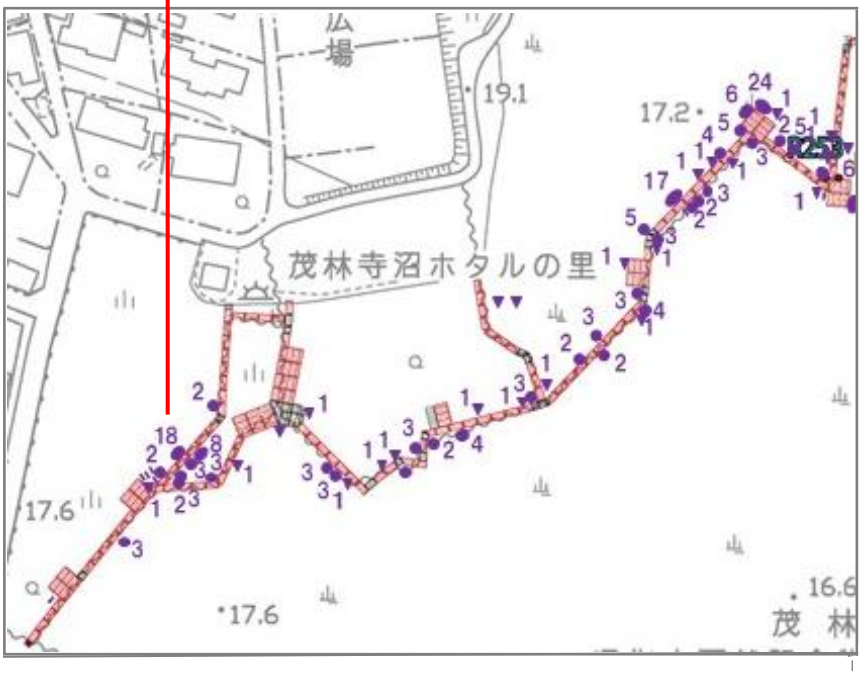


中央園路入り口、左側の見本園のカキツバタ

カキツバタの花を観察しよう！

木道沿いのカキツバタ





2025年5月9日時のカキツバタの開花状況

茂林寺沼湿原在来のアイリス

カキツバタ

茂林寺沼湿原を象徴する植物です。
かつては湿原のいたるところで見られましたが、現在では、湿原西側の木道沿いで見られます。
保全活動の中心になっている植物です。

ノハナショウブ

花は赤紫色をしている

花ショウブの原種で、かつては少ないながら湿原の所々に自生していましたが、現在ではほとんど見られなくなりました。在来のものが、中央遠路入り口付近の見本園に保護繁殖しています。

葉は中央の脈が目だつ。さわると出っ張っているのがわかる。

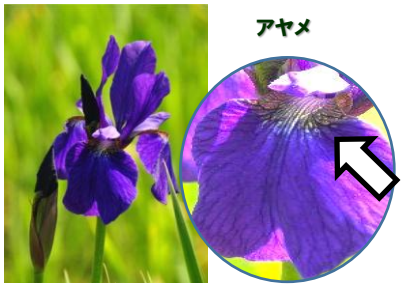
茂林寺沼湿原のカキツバタの花の色のいろいろ

茂林寺沼湿原の在来のカキツバタは株によって、花の色彩に多様性がある。

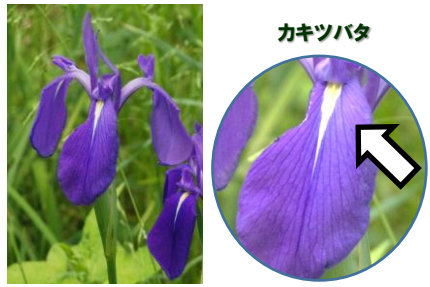
地域のカキツバタをの全する際の注意

かつてこの地域に自生していた茂林寺沼湿原のカキツバタは、代々受け継がれてきた個性がこの地域の環境にあった生育特性を持っている、遺伝的多様性が保たれた個体群です。

「いずれ菖蒲か杜若」　アヤメとカキツバタの違い



花びらに網目模様がある
湿り気のある草原や畔に生育



花びらに網目模様は無く、白い筋がある
水気を好み湿原内に生育

カキツバタの生活史

発芽から開花までは、最低2年かかる

2月下～3月

芽生え

冬は枯れて
早春から葉を伸ばす

5月中下旬

開花

ヨシなどの背が高い草が
伸びきる前から咲きだす

6～7月中

果実が
成長する

8月～10月

果実は熟すと皮がめく
れて種子がこぼれる

11月～1月

カキツバタの種子

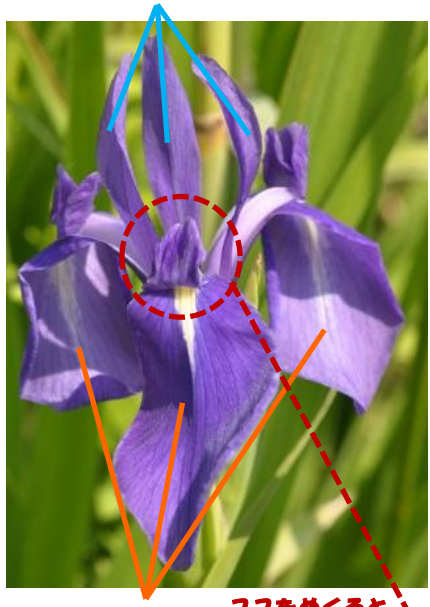
種子と根茎で増える

カキツバタの生育場所

カキツバタの草丈は最高で1m程度であるため、3mまで成長するヨシ原の中では、日陰になってしまい生育に適さない環境になってしまいます。
本来は、1m以下の明るい湿性植物の群落が生育に適しています。
また、外来種のキショウブやルイジアナアヤメに駆逐されてしまう傾向もあります。

カキツバタの花のしくみ

ないかひへん
内花被片
（花びらにあたる）

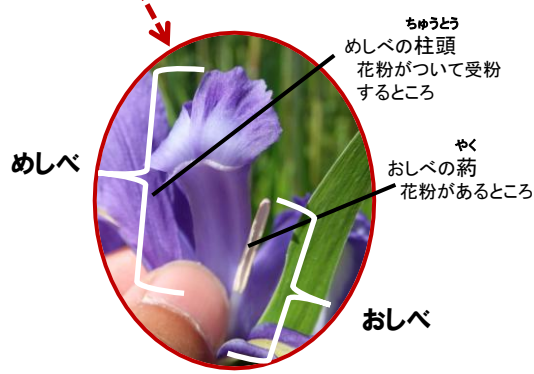


がいかひへん
外花被片
（がく片にあたる）

カキツバタのおしべとめしべは、花びらの内側に隠れているため、雨の日でも、雨粒がつぶが当たらないような構造になっています。

花びら見える部分は、内側に2枚、外側に3枚あります。

ここをめくると



アヤメの仲間は、花びらとがく片が明瞭に区別できないので、花被と呼びます。このような花被は、主に単子葉類でみられるものです。

外来種のアイリス

湿原内に蔓延ってカキツバタを駆逐してしまう！

キショウブ

1897年ごろ日本に持ち込まれた抽水性の多年生草本で、1.2m程の高さに成長する。環境省が生態系被害防止外来種に指定。

黄色い花が美しいと珍重され、各地でさかんに植栽えられた。

近年、急激に増えはじめた種！

ルイジアナアヤメ

アメリカ南部原産の外来種。変異や他種との交雑が多く、花色の豊かなことが特徴で、これを反映して人工的な品種改良も盛んにおこなわれた。

アヤメの４種の見分け方

花

カキツバタ

花は青。
外側の花びらに白～薄黄色のすじがある。

ノハナショウブ

花は紫。
外側の花びらに黄色いすじがある。

キショウブ

花は黄色。

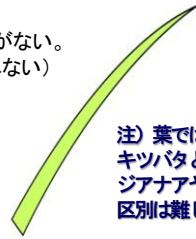
ルイジアナアヤメ

花は茶色がかった桃色～薄紅色。

葉

葉の中央に太い脈がない。
（触ってもあまり感じない）

葉の色は薄め。

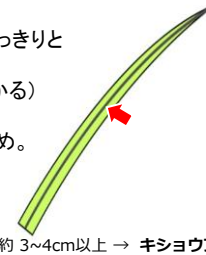


注）葉では。カキツバタとルイジアナアヤメの区別は難しい

幅が太く約3~4cm以上 → **ルイジアナアヤメ** 外
幅が狭く約3~4cm以下 → **カキツバタ**

葉の中央にはっきりと太い脈がある。
（触るとよくわかる）

葉の色は濃いめ。



幅が広く約 3~4cm以上 → **キショウブ** 外
幅が狭く約２~3cm以下 → **ノハナショウブ**

キショウブとカキツバタの草丈の違い（混生すると他種を駆逐する）

春期に見られる花

ヤナギ科

観察できた種は ✓ しましょう。

スミレ科

☐ ☐ ☐

マルバヤナギ（アカメヤナギ）

タチヤナギ

ヤナギの果穂、綿毛で種子が飛遊すると水面上や湿地の地表に白く積もるほど

ツボスミレ

湿地に生育する代表種、「ニョイスミレ」とも言う。

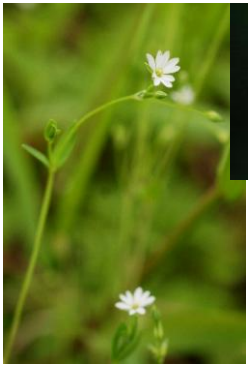
ナデシコ科

☐ ☐

イトハコベ

1対に分かれた花びらが5枚

ノミノフスマ



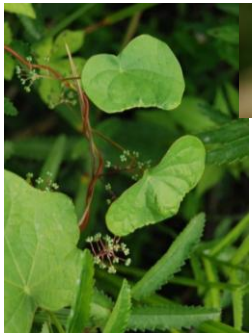
花びらは10枚

細長い茎の先に、小さな白い花をつける

～春の花を探してみよう!!～

ツヅラフジ科

コウモリカズラ



小さくまとまっているので、気づきにくい花です。

ドクダミ科

ハンゲショウ

花より、白い葉；・がよく目立ちますです。

バラ科

ミツバツチグリ

ヘビイチゴ

キキョウ科

バアソブ

探してみよう！　地味だが、可愛らしい

イネ科

クサヨシ

開花前の花穂

開花した花穂

チガヤ

綿のような花穂

カヤツリグサ科

ゴウソ

雌花穂は麦のような形

アゼナルコ

細長い雌花穂を沢山つける

垂れ下がる花穂が目立つ！

イネ科、カヤツリグサ科の花

カヤツリグサ科

ノテンツキ

花火のように
見える花穂

オニナルコスゲ

直立し、雄花穂と
雌花穂が離れる

ウキヤガラ

ジョウロウスゲ

オニスゲ

だ円形の花穂が目立つ！

マツバスゲ

アゼスゲ

カサスゲ

直立した茎に花穂が付く！

カキツバタの植え込み

例年の学習会では、里親として市民の皆さんにタネから育てたカキツバタを、中央園入り口東側の見本園や木道中編でカキツバタの植え込みを行っています。

また、茂林寺沼湿原内でカキツバタの健全な生育を支援するために、周囲を覆ってしまう、丈の高い植物の管理作業も、毎年継続しています。

2022-24年の観察会・保全活動時等のカキツバタ移植の様子

「茂林寺沼湿原生物調査研究会」
は、毎月第３日曜日に開催しています。

2021年４月から、「茂林寺沼湿原生物調査研究会」の活動が始まりました。茂林寺沼湿原の自然に関心のある有志で、観察会などを中心とした活動をしているサークルです。毎月第３日曜日*)に開催している自由参加の活動ですので、関心のある方はご参加ください。

今年の５月の開催17日、６月は21日です。活動を通じて、湿原の植物図鑑や昆虫図鑑を作成していきたいと思っています。

*) 活動日は天候等の都合で変更（順延）する場合がありますので、ご注意ください。（「もりん爺のブログ」にて確認ができます。

茂林寺沼湿原自然学習会

主催：館林市教育委員会文化振興課
資料編集：青木雅夫、㈱ 地球工作所